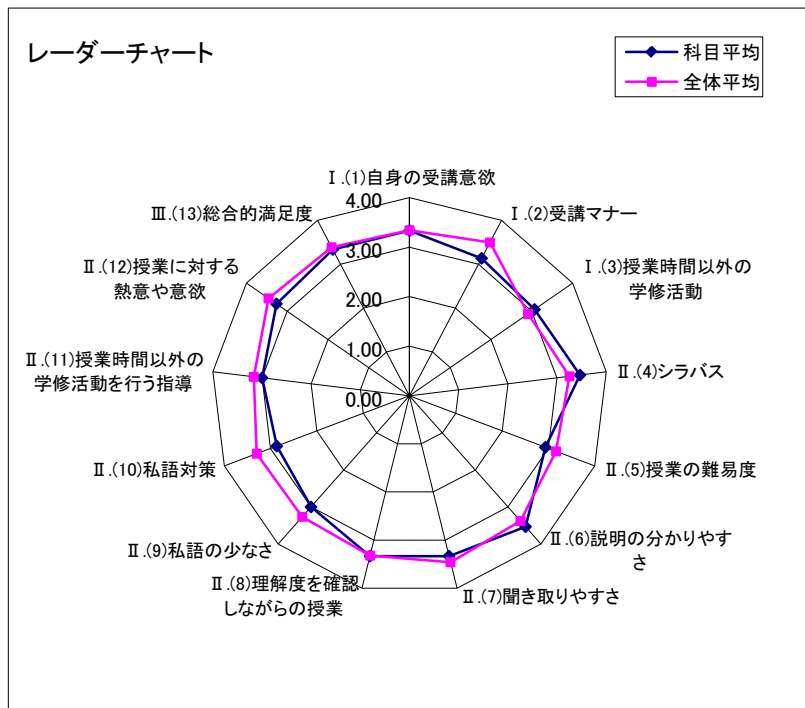
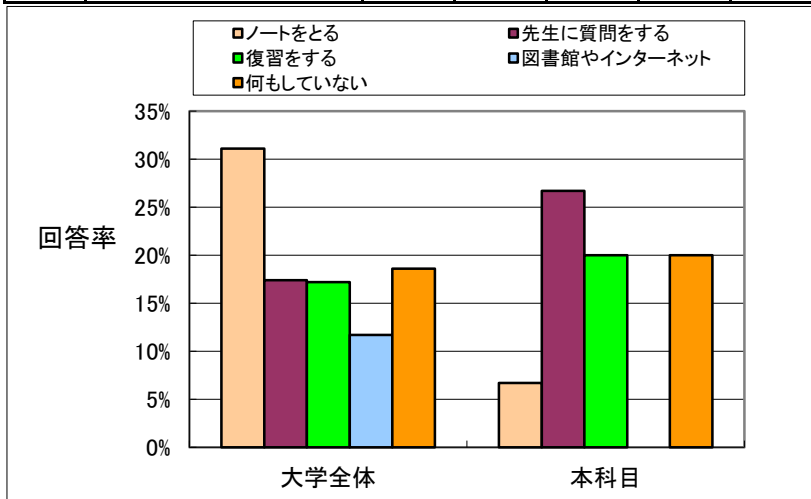


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14)	授業を理解するための工夫	6.7	26.7	20.0	0.0	20.0



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.33	3.34
	I.(2)	3.13	3.49
	I.(3)	3.07	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.47	3.26
	II.(5)	2.93	3.16
	II.(6)	3.53	3.38
	II.(7)	3.33	3.46
	II.(8)	3.33	3.32
	II.(9)	3.00	3.27
	II.(10)	2.87	3.30
	II.(11)	3.00	3.17
	II.(12)	3.27	3.46
	総合評価	III.(13)	3.33

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢		
I.(1)~(3)	3.18	3.25
講義内容・方法		
II.(4)~(12)	3.19	3.31
総合評価		
III.(13)	3.33	3.39

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2012年度 後期
時間割番号	1304
科目名	基礎数学Ⅱ
教員名	

①授業計画の達成度について

学部共通内容の科目であり、教科書も指定された「数学検定」である。この教科書は3つの級別に問題が分野に関係なく配列されているため、数学の内容の意味を考えられないので、授業では学習内容にテーマを設け、テーマ別に編集した問題配列のプリントを必修課題として実施した。難易度についてアンケート結果がほぼ一様に分散しているが、習熟度テストで上位者の1回生と再履修者の2回生が混合のクラスであり、クラス構成に問題があることを浮き彫りにしていると考えられる。授業計画の達成度については、一斉テスト60点以上の合格基準で何人が合格したかで計ることになるのだろうが、このクラスでは50点台で不合格の学生がかなりの人数いた。授業中の教員の観察による評価も適切に考慮すべきであろう。

②授業の進め方について

授業の進め方は、科目内容の特性から基本的には個別の指導を中心とした。そのうえで、難問に相当する問題については一斉授業の形式をとったが、学生の集中を持続させることが、難問ゆえにかえって困難になるというジレンマが生じた。当該の問題を考えなければならない必然性を自覚することなしに、与えられた問題を演習ことの限界であろう。数学における数理的思考の経験を、このような科目設計でどのように具体化すればよいかを考察し、来年度の授業時に工夫して取り組む課題としたい。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

アンケート全体を通しての自己評価は、全体平均並みということであり、予想の範囲内である。リメディアル教育に相当する科目内容であるから、特に際立った授業にはなりようがないからである。しかしながら、数学の授業においては、数理的思考が必要となる問題状況を生き生きとイメージできる物語が必要であることを改めて痛感した。対話的授業を実践し、授業時に学生が数理的に考える経験を促進するように各回の90分を構成したいと考えている。